社会福祉法人　希望が丘

令和７年度第１回地域連携会議議事録

１．開催日時　　令和７年 10 月 21 日（火）午後２時～午後４時

２．開催場所　　希望が丘　２階　会議室

３．出 席 者

構成員５名　　社会福祉法人松原愛育会 ふじのき寮施設長
金沢市森本地区社会福祉協議会 会長
三谷地区町会連合会 会長
社会福祉法人希望が丘家族会 会長
希望が丘（障害者支援施設）利用者

事務局４名　　理事長、支援部次長、障害者支援課長、総務課長補佐

４．議　　長　　金沢市森本地区社会福祉協議会 会長

５．議事録作成者　総務課長補佐（事務局）

６．議　　題

議題１　希望が丘の実施事業について
議題２　希望が丘の各種取組状況について

７．議事の経過の要領及びその結果

（１）開会・挨拶

定刻となり、事務局より構成員総数５名全員の出席により、地域連携推進会議設置規程第４条に規定する構成員の総数の過半数が出席しており、会議が成立していることを確認した。

最初に理事長より開会の挨拶があり、地域連携推進会議の趣旨と重要性について説明を行った。

この会議は、今年度より義務化された制度に基づき、障害のある方々が地域の中で安心して暮らしていけるよう、地域の皆さまと施設との連携を深めることを目的としている。

この会議は、地域の皆さまと施設が連携し、より開かれた支援体制を築くための第一歩である。制度上の義務という枠を超えて、地域の皆さまの声を直接伺い、共に考え、共に歩む場として育てていきたいと考えている。

（２）出席者の紹介

出席した構成員及び事務局職員が順番に自己紹介を行った。

（３）議長の選出

地域連携推進会議設置規程第３条第２項の規定により、出席した構成員の互選により金沢市森本地区社会福祉協議会 会長が議長に選出された。

議長は、開会を宣言した上で、議事に入った。

（４）決議事項及び質疑応答・意見交換

【議題１】　希望が丘の実施事業について

事務局より、希望が丘の実施事業について説明があった。

・希望が丘の歴史

昭和 43 年８月に法人認可を受け、定員 50 名の知的障害児入所施設として開設した。

・事業内容

事業は福祉型障害児入所施設・障害者支援施設・共同生活援助・計画相談支援・障害児相談支援・生活介護を運営している。

・利用者の状況

障害者支援施設の利用者は男性 35 名・女性 33 名、最年少は 21 歳・最高齢 89 歳、平均年齢は 52.9 歳となっている。

入退所の状況は昨年度２名が入所、５名が退所している。

在所期間は、最長在所者は開所時の 10 名で 50 年６か月であり、平均在所年数は 24 年 9 か月となっている。

・職員体制

支援の体制は３：１、生活支援員は常勤 25 名・常勤兼務１名・非常勤１名で支援している。

給食は直営で行い、管理栄養士１名、調理員常勤２名・非常勤１名を配置し、障害児入所施設の調理員と調理を行っている。

・経営状況

令和６年度決算の法人全体の概要は収入が６億 5,419 万 616 円、支出は６億 3,131 万 7,855 円、当期資金収支差額は 2,287 万 2,761 円、当期末支払資金残高は２億 379 万 7,148 円となっている。

・地域における公益的取組

① 小池赤土野菜組合との農福連携

平成 23 年より地元の小池赤土野菜組合と希望が丘利用者、職員で共同での乾燥野菜作り行っている。希望が丘カッコーの設備を無償で提供し、小池赤土野菜組合が乾燥野菜を製造・販売している。また石川県の農村ボランティア隊と一緒に小池町の畑で乾燥野菜用のさつまいもの苗植え、収穫作業を行っている。

② 金沢美術工芸大学との陶芸活動

平成 27 年より文化庁事業の障害者の芸術活動を支援する新進芸術家の育成に取り組む金沢美術工芸大学との陶芸活動を行っている。今年度も９月末に希望が丘の穴窯で窯焚きを行い、様々な作品を制作した。来年２月に金沢クラフト広坂で学生、利用者様の合同展開催を予定している。

③ 買い物支援車両の貸出

令和元年より森本地区社会福祉協議会と協力し、高齢者を対象とした買い物支援車両の運行（通称、おでかけサロン）のため、無償で月２回、事業所の車両を貸出している。地元住民有志がボランティアで運転し、イオン金沢まで高齢者を送迎している。

●議題１に関する質疑応答・意見交換

・給食は直営で行われているため、献立表や給食の写真があったほうがよい。
昨年度、他県のグループホームで食材費の過大請求があったため、適切な食事の提供を公表したほうがよい。
利用者より食事はおいしい、お肉が食べたいとの意見があった。

・経営状況について、収入に関して毎年増収しているのは処遇改善加算や報酬改定によるものも大きいが、松原愛育会の利用者と同じく高齢化により、障害区分が重度認定される利用者が増えて、給付費が増収している部分もあると思われる。

・補助金について、石川県及び金沢市より物価高騰対策や光熱費・食材料費の補助金を受け、施設にとしては助かっているが、電気代や食材料費、とりわけ米の価格が高騰しているため、支出が増大している。
また、利用者から徴収する食費・光熱水費は上限が決められているため、収入を増やすことはできない。

・利用者の高齢化による高齢施設への移行時期についての質問があった。
→ 個別差があるが、認知症の進行や重病により施設での生活が困難になった場合に移行するケースが多い。

議長から構成員にその他質疑等の意見がないか求めたところ、質疑等がなかったので、これを了承した。

【議題２】 希望が丘の各種取組状況について

事務局より、希望が丘の各種取組状況について説明があった。

・虐待防止及び身体拘束防止の取組

希望が丘では虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を設置し、各部署に虐待防止マネージャーを配置している。石川県や金沢市による外部研修に毎年参加しており、受講した研修内容については施設内研修（伝達研修）を通して職

員に周知している。また、ストレスマネジメントの研修にも参加している。

・施設内事故発生状況

事故防止委員会を設置している。昨年度は８件の事故があった。事故は金沢市や援護の実施者の市町へ報告している。

・苦情対応

定期的に苦情受付「お話しませんか」を実施し、利用者からの意見を聞いている。

・感染症対策及び防災、事業継続計画

感染症対策委員会を設置し、新型コロナウイルスによる緊急事態が発生した場合を想定した事業継続計画（BCP）の作成・見直しを行い、施設内研修を実施している。

防災管理委員会を設置し、災害発生を想定した事業継続計画（BCP）の作成・見直しを行い、施設内研修を実施している。また、定期的に火災や地震の被害を想定した避難訓練を実施している。

・地域における公益的取組、実習生受入れなど地域との関係

三谷公民館の文化祭や旭日公民館の演奏、三谷地区の朝市に参加など、地域の行事に参加している。

県内の大学や短期大学、専門学校から実習生を受け入れている。昨年は９名の実習生を受け入れた。

●議題２に関する質疑応答・意見交換

・昨年度、コロナ禍が明けて久しぶりの希望祭に参加できて楽しかった。以前のような規模の希望祭を開催することはできるのかとの質問があった。

→　利用者の高齢化による体力の低下を考慮すると、長時間楽しむことができないと感じている。

そのため、以前のような規模での開催は難しいと考えている。利用者が安心・安全に楽しめる規模での開催を考えている。

・家族会の回数が減っていることもあるが、コロナ禍以降、職員と話をする機会が減っている。以前のように家族会がある日に利用者がいるユニットで話をする時間は設けられないかとの質問があった。

→　職員は交代勤務なので、帰省時に担当職員がいないことはある。

感染対策などの状況によって検討したい。

・利用者の事故に関し、入院に至るケースについて質問があった。

→　発作による事故で逝去されたケースの報告、また、転倒やトラブル等で入院に至る事故はなかったことの報告を行った。

女性利用者に多い骨粗鬆症や高齢化による歩行の不安定さが顕著になっ

ているため、事故防止に取り組んでいく。施設内にはカメラがあり、事故があった際には状況を確認している。

・今年度新型コロナウイルスの感染状況について質問があった。
→　クラスターが１度発生した報告を行った。

・能登地震発生時の状況と連絡体制について質問があった。
→　希望が丘はガスとエレベーターが安全装置により停止し、家具等の破損があったが大きな被害はなかった。事業継続計画に基づき、施設長や役職者が参集した。この実体験を今後の訓練の参考にする。

議長から構成員にその他質疑等の意見がないか求めたところ、質疑等がなかったので、これを了承した。

（５）施設見学

構成員に施設内を見学していただく。

（６）閉会

議長は議事の全てが終了した旨を告げ、第１回地域連携推進会議が午後４時に閉会した。